

特別寄稿

乳児期の事故

—ハガキによる乳児期事故収集1年目の結果からの報告

澤田 淳¹, 能勢 修¹, 高峯智恵¹, 加藤康代¹, 西田明美¹, 伊藤陽理²,
長村敏生², 清沢伸幸², 藤田克寿³, 京都小児科医会³

1 京都市子ども保健・医療相談・事故防止センター, 2 京都第二赤十字病院小児科, 3 京都小児科医会

京都医報 No.1864 (平成19年7月1日)に「お母さん・お父さんへのお願い(事故からお子さんを守るために)」というタイトルで掲載いただきました。これは京都市内で平成19年度に生まれた赤ちゃん全員を対象に市内保健所や京都小児科医会の先生の協力をえて「ハガキによる乳児の事故調査」を開始しました。

この調査は、京都市内で出生した生後0歳～1歳未満乳児と、続く1歳以降～2歳未満幼児に発生した事故を連続的にハガキで報告していただき、京都市での乳幼児事故の疫学調査を目的とした。この報告は1年目に得られた結果で、死亡例はなかったが、死に至る寸前の例(ニアミス)が予想外に多かったこと、乳児期早期の3か月までの動かないと思われている赤ちゃんでも転落事故が目立ったので緊急的に警報を発する必要性を認めた。さらに、この研究の精度をもっと高めると、正確な頻度の調査が出来ると思われたので、医師会、特に、小児を診察しておられる先生に関心を持っていただき、お母さん、お父さんへの協力を啓蒙したので報告しました。

1) 表1に対象事項を示した。平成19年度の京都市の出生数は11,843人で、男/女=6,063人、女5,790人:1.0/1.05。ハガキ回収数347枚(人)回収率2.9%、有効枚数327枚(2.8%)、事故の有無と事故ありの男女数を表1に示した。20枚は年齢が対象外で除外した。事故の発生は1.8人/

100人で女の1.6人/100人で、乳児期でも男に多かった。

2) 表2に事故回数と総事故回数を示した。19年度の総事故回数は350件。1回だけ116人(33.1%)、2回64人30.4%、3回18人6%、4回9人4.3%、5回2人0.9%、6回1人0.4%であった。2回以上が94人で66.9%、3回以上が30人14.2%で多くが繰り返していた。

3) 表3に事故発生場所と事故の種類を示した。転落が最も多く162件(46.3%)、次いで誤飲、転倒、衝突、火傷の順であった。転落、打撲、タバコの誤飲は繰り返した例があった。その他、鉛筆、ボールペンなどを突く等であった。事故は何処でも発生し、何でも原因となる、であった。

4) 3回以上の頻回例。

転落、転倒、指つめが多い。原因は転落ではベッド、ソファ、ベビーカーの他、手から落ちた(お風呂)もあった。指つめは、引き出し、扉、引き戸で、転倒や打撲はどこでも、どの部位でもおこっている。お風呂では、手から滑って、沈んだが4件あった—石鹸のついた手はぬるぬるで滑りやすく、薄いガーゼで覆いながら扱うと良い。

誤飲も多く、幼若月齢でもみられ、手に触れた物は何でも口に持っていくことがわかった。ティッシュペーパー、新聞、タバコ、雑誌、玩具など。ベビーベッドにティッシュペーパーやウエットティッシュペーパーを置かないでください。

しかし、虐待によると思われる例はなかった。

5) 表4に年齢別発生数と事故の種類を示した。

月齢別に見ると3か月未満でも23人(6.6%)が事故に会い、ベッドからの転落が多く、ほとんどであった。4~7か月では93人(26.6%)も、その内、転落(15.7%)が最も多く、次いで誤飲であった。8~11か月に217件62.0%を占め、動きの幅が広がり玄関からの転落(10例)や机・テーブルからの転落・転倒が目立ち、次いで、誤飲、火傷であった。行動範囲が広がったことが原因と思われた。手足しか動かさないから移動しないと思われている3か月未満児でも手足を動かして廻るなど、移動するので、「ベビーベッドの柵は必ず上げる」、「ちょっとだけ」と大人のベッドや椅子、ソファに置く・寝かせるのは止めてください。月齢の増加に伴い転落のみならず、誤飲、転倒、衝突、やけど例とも増加した。幼若乳児でも思いも寄らない事故が発生していることがわかった。

骨折例が2例あった。2例とも鎖骨骨折で、大人のベッドから落ちた7か月の子と居間で50cmくらいの椅子?から落ちた10か月の子であった。

6) ニアミスと思われる例。

a. 窒息寸前・ヒヤットとするような例(10件)

i) 3か月: 添い寝中、毛布が顔にかぶさり、上に親の腕がかぶさり、泣き声で目が覚め、顔が真っ赤で窒息したと思った。

ii) 5か月: セロファンをのどの奥に詰まらせた。ミルクを飲みながらげーげーが3日間続いた。

iii) 7か月: ビニールの破片を誤飲し、窒息しかけた。

iv) 7か月: サツマイモをつめて窒息しかけた。

v) 7か月: パンを食べて窒息しかけた。背中をたたいて手で掘り出して、

戻った。

vi) 8か月: 大きな玉を口に入れて取り出すのが大変だった。

vii) 10か月: りんごをのどに詰まらせた。

viii) 10か月: シールをのどに引っ掛け苦しんだ、耳鼻科受診-よく来たといはめられた。

ix) 10か月: 泣いていたが、片付くまでと目を放していたが、スタンドの電気コードを首に巻いていた。

x) 11か月: シールをのどに引っ掛け苦しんだ、は2回目の例だった。

b. 溺水例(4件)

8, 9, 10, 11か月(各々別人): お風呂に落ちたが、親が直ちに救い上げた(4件)

ここに挙げた例はどれもが死に至る可能性があったが、保護者の適切な対応で救われた、と考えられた。緊急対応の教育・必要性を痛感した。

7) 事故による死亡例、障害を残した例の報告はなかった。

まとめ

京都市子ども保健医療相談・事故防止センター(京あんしんこども館)で開始した京都市内在住の平成19年4月1日から20年3月31日までに出生した乳児を対象に、京都市から全員に配布された「お祝いレター」に同封された事故調査はがきに1年目の誕生日までに発生した事故の記入を親に依頼し、誕生日後に返送を依頼した結果、

1. 347枚(出生数(3.0%)の調査用紙、327枚(2.8%)の有効情報が得られた。
2. 疫学的情報を得るための十分な枚数は回収できなかったが、京都市保健福祉部、京都市保健所、京都小児科医会の協力を得て、疫学的調査の可能性が見られた。

今後、お父さん、お母さんの協力が得られるような広報を検討したい。

3. 最低で男女とも100人に2人くらいが事

故に出会っている、ことが示された。

事故予防・防止の啓発のため、当センターの役割が重要であることが示され、もっと活用すべきと思われた。

4. 保護者への事故の関心を高め、身近なところの危険に対する教育が必要と思われた。
5. 予想外に死に至る可能性のあったニアミス例 - 窒息10例、溺水4例 - があったことは重大である。

6. 死亡例・障害を残した例はなかった。

7. ほとんどの事故は予測され、センターのセーフティーハウスでは発生現場を再現してあるが、改めてセンターの役割を痛感した。見学していたら未然に防止できたかもしれないと感じた。ぜひ、当センターの見学に来てください。

表1. 対象

(単位:人)

	平成19年度 出生数	男	女	不明 (性別)
	11,843	6,063	5,790	-
はがき回収数	347 (2.9%)	-		
対象はがき	327 (2.8%)	165	150	12
除外対象はがき	20 (0.0%)	-		
事故あり	210 (1.8%)	108	91	11
事故なし	117 (1.0%)	57	59	1

表2. 事故回数*と男女別 (単位:件)

事故回数	全体	男女別		不明 (性別)
		男	女	
6回	1	0	1	0
5回	2	1	1	0
4回	9	1	8	0
3回	18	13	5	0
2回	64	34	25	5
1回	116	59	51	6

*事故回数 350回

表3. 発生場所と事故

(単位:件)

発生場所	事故の種類							合計
	転落	転倒	衝突	誤飲	火傷	その他	不明	
ベッド	61 (17.4%)	1	0	-	-	-	-	62 (17.7%)
ソファ	19 (5.4%)	0	0	-	-	-	-	19 (5.4%)
椅子	31 (8.9%)	3	0	-	-	2	-	36 (10.3%)
階段	16 (4.6%)	0	1	-	-	-	-	17 (4.9%)
抱っこ	9 (2.6%)	0	1	-	-	-	-	10 (2.9%)
その他	22 (6.3%)	9	6	-	18	14	-	69 (19.7%)
不明	4 (1.1%)	29	12	51	-	40	1	137 (39.1%)
合計	162 (46.3%)	42	20	51	18	56	1	350 (100.0%)

表4. 年齢別事故種類

(単位:件)

月 齢	事故の種類							合計
	転落	転倒	衝突	誤飲	火傷	その他	不明	
0~3か月	13 (3.7%)	0	2	1 (0.3%)	0	6	1	23 (6.6%)
4~7か月	55 (15.7%)	7	4	10 (2.9%)	2	15	0	93 (26.6%)
8~11か月	84 (24.0%)	33	14	38 (10.9%)	16	32	0	217 (62.0%)
月齢不明	10 (2.9%)	2	0	2 (0.6%)	0	3	0	17 (4.9%)
合計	162 (46.3%)	42	20	51 (14.6%)	18	56	1	350 (100.0%)